

## 中国における狂犬病の流行状況

2009年、中国24の省（自治区・直轄市）では、2,213人の発症、2,131人の死亡が報告されており、報告された発症数と死亡数は、2008年と比して、夫々10.26%、10.20%下降している。2008年に中国の狂犬病発症者数が下降を開始した後、2009年度もまた継続下降の趨勢にある（図1）。

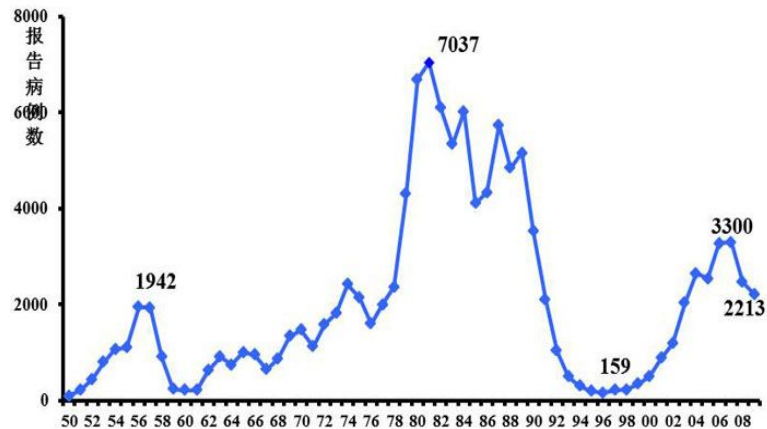


図1 1950～2009年全国狂犬病発症報告数

現在、中国では主に南方地区に分布が見られ、発症報告の最も多い省から広東省（330例）、広西省（324例）、貴州省（263例）、湖南省（200例）及び河北省（135例）の五省で全国発症者数の56.57%を占めている。（図2）

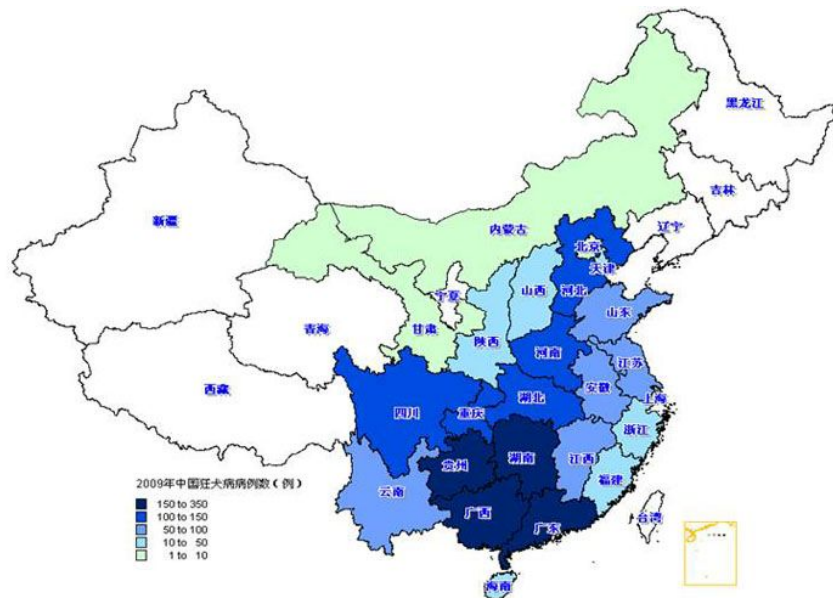


図2 2009年全国狂犬病流行の分布

4月から、全国の狂犬病発症数報告が次第に増加し始め、10月にピークを迎えその後下降をしている。各月の発症報告数には明らかな差異はない。（図3）

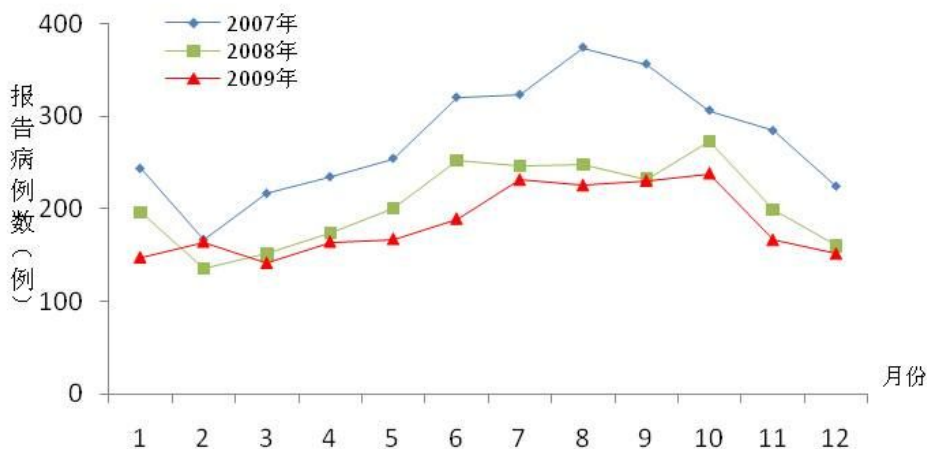


図3 2007～2009年全国狂犬病月次発症数

患者は相変わらず農民や学生、分散して居住している児童が主であり、夫々発症者総数の69.3%、10.57%、7.37%を占めている（図4）。

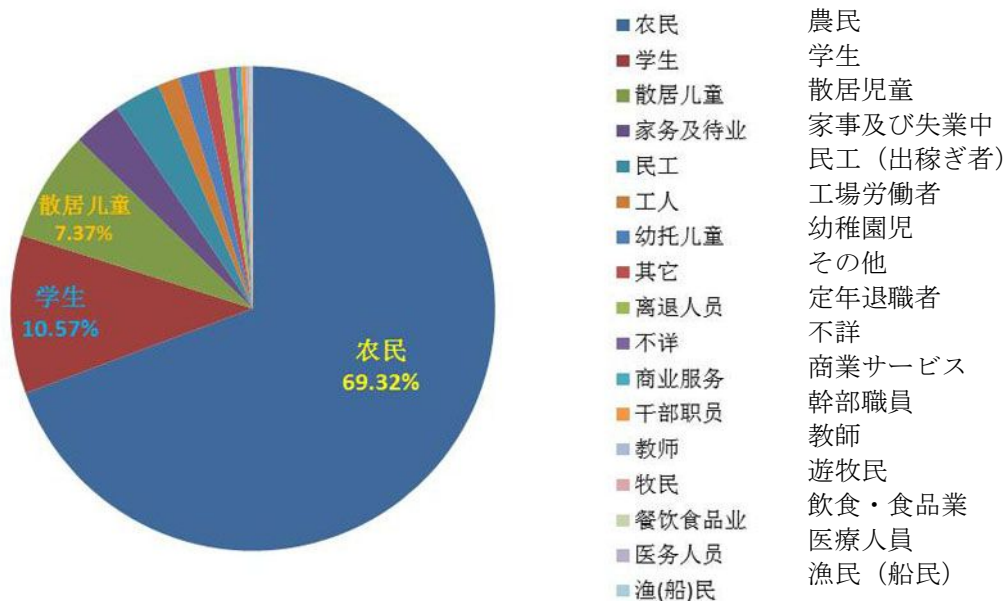


図4 2009年全国狂犬病発症職業構成

男女の性別比は男 **2.34** に対し女性 **1** となる。年齢分布の観点からみると **5 歳～10 歳** グループの発症率と発症数にピークが見られ、**15 歳～30 歳** では比較的少ない。**35 歳** 以後では年齢に従い増加、発症率はやや上昇、**60 歳～75 歳** でピークに達している。(図 5)

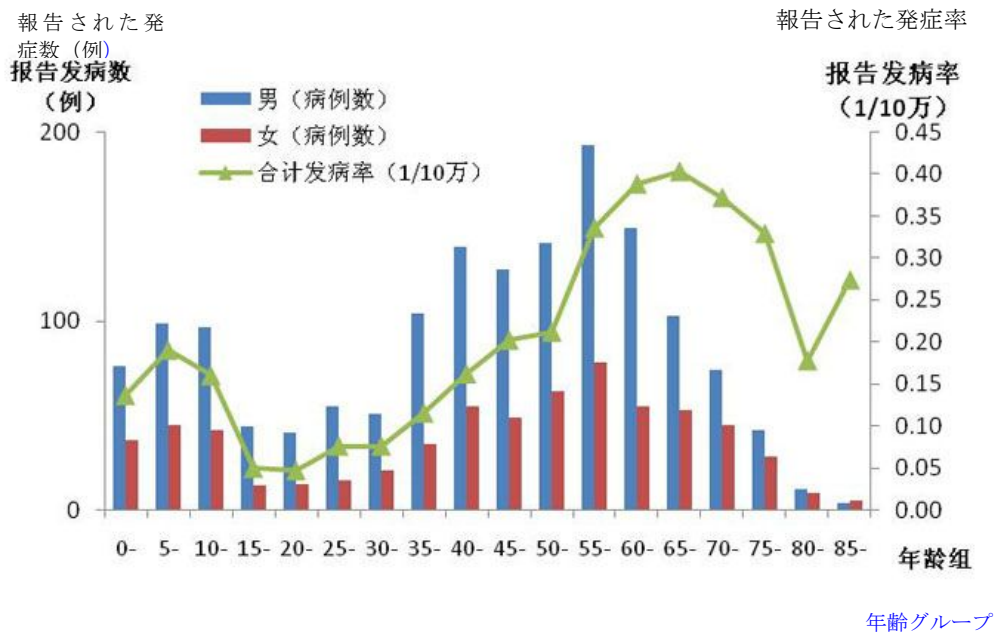


図 5 2009 年全国狂犬病発症年齢分布

狂犬病の流行状況(2009 年総括)  
資料提供: JOMF 宮本 昌和氏